

 **GRANCERA  
SERIES**

グランセラトップ 1液水性

F★★★★★

ホルムアルデヒド放散等級



外壁



水性



1液

# GRANCERA TOP

水性 1液セラミックハイブリッド超高耐候超低汚染無機系塗料

## グランセラ<sup>TM</sup>トップ 1液水性

美しい  
つや感

高い  
耐久性

安心の  
超低汚染性

防藻・  
防かび性

 **NIPPON PAINT**  
Basic & New



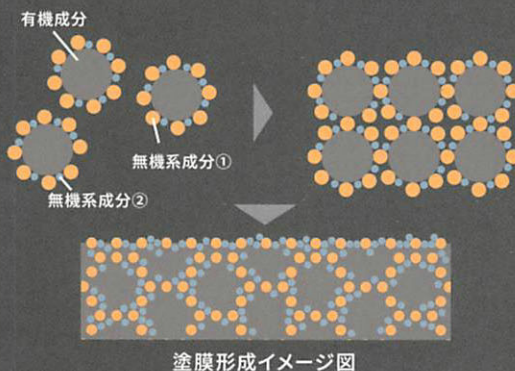
住まいの「美観」をまもり、「寿命」を延ばすハイグレード塗料  
**グランセラ™トップ 1液水性**

ラジカル制御技術とセラミックハイブリッド技術を融合。フッ素樹脂塗料を超える高耐候性、超低汚染性を誇るハイグレードの外壁用塗料です。

**セラミックハイブリッド無機系塗料とは？**

無機系塗料は紫外線に強く、高い光沢と燃えにくさが特長ですがその反面、塗膜が割れやすいという性質がありました。そこで無機の硬い部分（無機系成分①）と有機の柔軟部分をハイブリッド化することで「弾性」の性能が発揮されます。

さらに表層に配向した無機系成分②により、超低汚染性を発揮します。



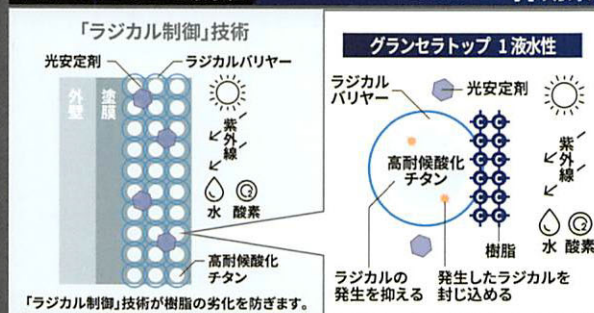
**独自技術で紫外線から住まいをまもる、非常に優れた耐候性塗料**

一般的な塗膜は、酸素や水とともに紫外線があたると顔料の主成分である酸化チタン内からラジカルが発生し、塗膜劣化を誘発します。そこで日本ペイントは、ラジカル発生を抑え、かつ発生したラジカルをバリアー内に封じ込める高耐候酸化チタンの活用技術を開発。さらに光安定剤の併用により、ダブル効果で優れた耐候性を発揮します。

● 上塗り塗料の耐候性のグレードレベル

塗料の耐候性には様々なグレードがありますが、ラジカル制御形塗料は住まいを長持ちさせる品質・性能をコストパフォーマンス良く享受できるのが魅力です。グランセラトップ 1液水性はフッ素を超える高耐候性。長期的に見て塗装回数が減り、お住まいのメンテナンス費用削減につながります。

**グランセラトップ 1液水性 ラジカルバリアーと光安定剤によるW効果**



GRANCERA SERIES  
グランセラトップ 1液水性

PERFECT SERIES



アクリル樹脂塗料



ウレタン樹脂塗料



シリコン樹脂塗料



ラジカル制御形高耐候性塗料



フッ素樹脂塗料



ハイブリッド無機系塗料

高耐候

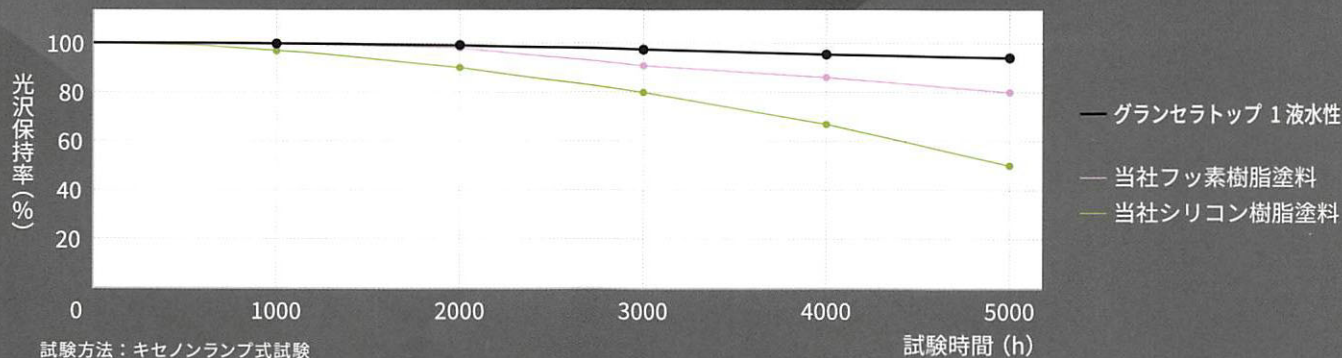


## “6つの特長”で、外壁を美しくまもります

### 1. 優れた耐候性

グランセラトップ 1液水性は、促進耐候性試験において優れた耐候性を示しました。

#### 促進耐候性試験



### 2. 美しいつや

グランセラトップ 1液水性は、高いレベリング性により、つやが優れています。またつや有り・7分・5分・3分つや有り、およびつや消しと幅広く対応が可能です。

グランセラトップ1液水性(つや有り)



当社一般低汚染水性塗料(つや有り)



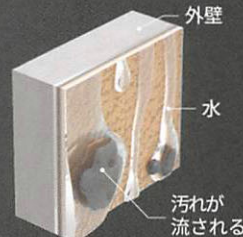
※上記はなみがた仕上げの塗膜画像(色はND-184)です。仕様はパーフェクトフィラー+グランセラトップ1液水性です。

### 3. 超低汚染性

グランセラトップ 1液水性は、「超低汚染性」(親水性機能)によって、建物外観に付着した汚れを雨とともに洗い流し、美観を維持することが可能です。

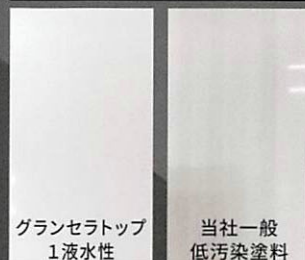
塗膜と汚染物質のモデル図

グランセラトップ 1液水性  
親水性膜  
水に濡れやすい塗膜



親水性が高いと汚れが落ちやすい

防汚性試験

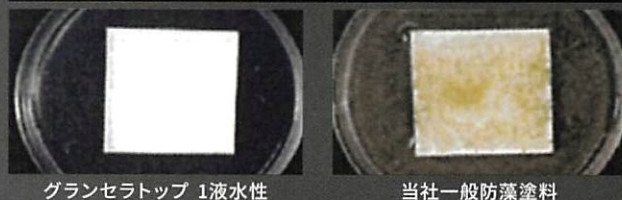


試験方法：当社規格による雨だれ強制汚染試験(東京での暴露6か月経過時写真)

### 4. 強力防藻・防かび機能

従来オプションであった強力防藻・防かび機能が標準搭載になりました。藻・かびの発生を抑制し、建物の美観と清潔な環境をまもります。

防藻性能試験結果(社内試験による)



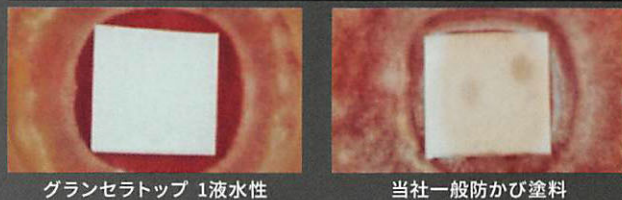
### 5. 透湿性

透湿性があるため塗膜の膨れやはく離を抑制します。

### 6. 弾性仕様

弾性タイプの主材(下塗り)と組み合わせることで、外壁のひび割れに追従でき、各種弾性形塗料の塗り替えに適応できます。

防かび性能試験結果(試験方法：JIS Z 2911 準拠)



#### 塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量
ニッペ グランセラトップ 1液水性	各色	つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り、つや消し	15kg、4kg

## ≡ 適用下塗りおよび中塗り塗料・適用下地

	適用下塗りおよび中塗り塗料	適用下地
内外壁	パーフェクトフィラー パーフェクトサーフ タイルラック1液 EPO-Sベース	DANフィラー-エポ DANタイル中塗りRホワイト/Sホワイト ファイン浸透シーラー
	水性パーフェクトシーラー ファインパーフェクトシーラー 1液ファインパーフェクトシーラー	●モルタル面 ●コンクリート面 ●窯業系サイディングボード ●ALCパネル面 ●各種旧塗膜の上
	パーフェクトプライマー	●無機やフッ素下地の高意匠サイディングボード (従来のモルタル、コンクリート面などにも塗装できます) ●付帯金属面 ●FRP ●木部 ●金属パネル外壁 ●重鉛めっき ●アルミ ●各種旧塗膜の上

## ≡ 乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥	8時間以上	4時間以上	3時間以上

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## ≡ 標準塗装仕様(塗り替え)

### ●モルタル面、コンクリート面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20~0.45	4時間以上	水道水	3~8	ウールローラー 砂筒ローラー タイルガン
			0.50~0.90			1~5 2~5	
上塗り	グランセラトップ 1液水性	2	0.14~0.17	4時間以上	水道水	0~10	はけ・ウールローラー・エアレスプレー

### ●サイディングボード、ALCパネル面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ・ウールローラー
上塗り	グランセラトップ 1液水性	2	0.14~0.17	4時間以上	水道水	0~10	はけ・ウールローラー・エアレスプレー

※フッ素及び無機コーティングした窯業サイディングボードの場合はファインパーフェクトシーラーをご使用ください。

※ファインパーフェクトシーラーは夏場(高温下)では、硬化反応が著しく進むため、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると、上塗りとの密着性が悪くなります。その場合は、再度下塗りをするか、ペーパーをかけるなどしてください。

※上記の各数値は、すべて標準のもので、被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※旧塗膜は健全な状態であることを想定しています。

※カタログに記載している内容は一般的な現場下での施工を想定し記載しております。特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただけますようお願いいたします。

## 施工上の要点と注意事項 ※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにご確認ください。

1. 絶えず結露が発生するよう用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が予測される場合は、塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。2. 濡れ防止や防水材(珪素モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用し「高断熱型外壁」で、旧塗膜がさらに拡大する可能性があるため、事前に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蒸熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥れ、はく離が生じることがありますので、最寄りの営業所などにご相談ください。3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上にある場合、または換気が十分に確保が考えられる場合、塗装は避けてください。4. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。5. つや調整品では、塗り替えや補修でつやむらが出やすいので、面を切って塗してください。6. 退剥希釈をすることで本来のつやが再現しないおそれがありますので、規定の希釈率をまもってください。7. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、厚み、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際の塗色の見え方が異なりますので、事前に試し塗りを確認してください。8. つや調整品は、使用にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かき混ぜながらご使用ください。9. 防藻・防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理してから塗装してください。10. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が現れられない場合があります。11. 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペックスコート剤をオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。12. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の無い場合には、剥れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。13. 色相によっては降雨、結露によって色褪せする場合があります。乾燥すると元に戻ります。14. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭き、せっけん水で洗ってください。15. スプレーの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗膜の劣化の原因となります。16. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。17. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後ははけなどではできただけで水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。18. 動物はけは、はけが固まったダメージとなりやすいため、できる限りナイロンはけをご使用ください。19. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、洗浄面としてください。付着阻害をおこなっておく必要があります。20. 既存塗膜の剥れ箇所は、既存塗膜の塗装仕方で合わせを行ってください。21. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)・ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸込み箇所がある場合はその部分を増し塗ってください。22. 外壁・パネル面にもご使用いただけますが、平滑(フラット)面に塗装した場合、塗りむらなどの仕上がりに不良な場合がありますのでご注意ください。23. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。24. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、このような場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。25. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製H1500シリーズ・コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。26. 表面のほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンク、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。27. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において、巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200)などで処理してください(合成樹脂エポキシパテの使用は避けてください)。

28. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。29. 材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。30. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。31. 塗装直後から頻りに人が触れるようなドアの一部や手すりなどは、皮膜の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。32. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。33. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。34. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。35. シーリング面の塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。36. 釜、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、剥れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。37. 溶剤は薄べい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。38. 上塗りに付いたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に付けた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れにくい場合がありますため、事前に試験施工塗り版などで確認下さい。39. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。40. 濃彩色や付いた原色の場合、塗膜を強くこすると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性がある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、ファンシールコンプレックスリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び剛毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や剥がれが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。41. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。42. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌質が異なるため若干の色相差が生まれるため、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。43. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。44. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。45. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。46. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。47. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビ珪藻板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴム(ツッキン、合成皮革など)への直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接付着することがないようにご注意ください。48. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや艶消しによるピンホール、凹などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。49. 塗料は内容物が均一になるようにかき混ぜてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かき混ぜる用いて底の沈降物を十分にかき混ぜてご使用ください。50. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。51. 大気中の浮遊鉄粉成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。52. 塗料漏洩の原因となりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。53. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。54. 塗料、塗料容器、塗料具を廃棄する際には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗料具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すことと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

# 日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608  
 東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180  
 関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346  
 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861  
 中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2024 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>



カタログNo.  
 NP-C136  
 A2241025T  
 2024年10月現在